高等女学校の研究
（第五報）

熊本県立第一高女におけるダルトンプラン

山本 禮子

一八九九年の高等女学校令の発布とともに各県一校ずつの設置義務づけの政策の中で、高等女学校の普及拡大を目的にされたのが、

高等女学校の実態を対象として、二〇〇〇年代にわたり大正自由教育の実践活動としてのダルトン・プランが全国の高等女学校卒業生に実施されたアンケートと同時期のものである。

学校史にみられる自学自習教育

学校史に記載されている自学自習教育の記事によってこの学習法の流れを辿る。一九二六年、東京府立第一高女では自由研究時間の設置している。四・五年の割烹及び家事実習の時間に分かし、一方を実習、他方を自由時間として各自の得意学科の学習および女高師等進学生徒の準備教育の時間に活用している。当時、大阪府立梅田高女では自学自習が強くされ、国語の授業などは教卓を中心にコの字型に机を並べ、ディスカッションが主であったと述懐する。なお、学年末の総考査を疑問視し中止している。

福岡県立朝倉高女では、一九三年、自学自習の教育として、各組の教室を各学科教室に変更し、毎日第六時限を自由自学の時間と

として設定する。当時ダルトン式教授方式はまだ珍しく、相当注目されたようで、郡内小学校職員に対する講習も行なわれたことと記録されている。一週間各得意の教科を選び、日毎あがっている先生の教室で勉強したが新潟県立長岡高女では一九二三年の実践で
ある。

一九三〇年、栃木県立真岡高等学校は「自学校領国」を制定し、
自発的、学び、間の養成をつとめている。その実施状況はつきの通りである。

1. 始業前、生徒は始業三〇分前に到着。クラス担任の指導の下に、
   そこで学習する。

2. 教室中、できるだけ自学をしない、特に国語、数学、英語等の科目を多数の教室に配る。

3. 進学の場合、その教科の補充として自学、図書館、補充室（自学室）に多数の補充書、参考書を用意する。

4. 第六時限課外、四月より十月まで比較的長い間毎週一回、一時間あてに行う。この自学の時間、一、二年生は主として正課の
   予習復習、三、四年生は自学復習の外に、国語、数学及び、その他一般学科の四班に分かれ、
   各自が指導を受けたい学科の先生の許で自由に質問研究ができる。

これらの記録から、大正期は自由教育と称しても、大正初期は自由研究といい討議法の導入で学校の自由教育制度の中の改革である。つまり
その時期が本文論で以下に述べるダルトン・プランの導入で、これには教師の指導体制および、生徒の自学者及び、科学的な改革をもたらすも
のである。それ故に、他校に多くのインパクトを与えながら、かえって実質的普及拡大に到らなかったのではないかと思われる。第三
年度四月から全学年で実施された（第一学年は週一回四時間で数学、歴史について、第二学年は週一回四時間で数学、地理について、
第三学年は週二回八時間で国語、数学、地理、理科について、第四学年は週二回四時間で国語、数学、地理、理科について、
形態として、吉田

二、熊本高女、ダルトン・プランの導入

ダルトン・プランは、中心とした熊本高女（高岡）。と早川の導入で、
ここに多くのインパクトを与えるが、かえって実質的普及拡大に到らなかったのでないかと思われる。第三
年度四月から全学年で実施された（第一学年は週一回四時間で数学、歴史について、第二学年は週一回四時間で数学、地理について、
第三学年は週二回八時間で国語、数学、地理、理科について、第四学年は週二回四時間で国語、数学、地理、理科について、
吉田

彼は一九三〇年生まれ、富山県出身で、富山師範を出て小学校に三年余務勤後、広島高師の英語部で一年生に進み卒業後、高田師範・池田師範を経て同じ北陸出身の木下竹次校長に招かれ鹿児島女子師範に転動、翌年から第二高女教諭を兼任する。この間七年間。
<table>
<thead>
<tr>
<th>年</th>
<th>月日／第一</th>
<th>高女関係事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>二九三</td>
<td>吉田惟孝校長の就任式挙行</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三九二</td>
<td>熊本県立第一高等女学校と改称、県立第二高女開校</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>四九二</td>
<td>補習科廃止、専攻科配置</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>五九</td>
<td>妹尾良彦国語科専任として着任</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>六九一</td>
<td>吉田校長「ダートン方案の学級」と題した原稿を県教育会に提出</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>七九</td>
<td>吉田校長名教育観を「学校の教育において卒業生諸妹の了解を求む」と題して、ロンドンにて執筆。発表</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>八九</td>
<td>吉田校長実行部長、校長代理発令</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>九九</td>
<td>校友会誌「若草」発刊</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>〇九</td>
<td>吉田校長外遊へ出発（欧米の教育事情観察）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>一九</td>
<td>吉田校長外遊中、校長代理発令</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>二九</td>
<td>吉田校長名教育観を「学校の教育において卒業生諸妹の了解を求む」と題して、ロンドンにて執筆。発表</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三九</td>
<td>吉田校長実行部長、校長代理発令</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>四九</td>
<td>校友会誌「若草」発刊</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>五九</td>
<td>吉田校長名教育観を「学校の教育において卒業生諸妹の了解を求む」と題して、ロンドンにて執筆。発表</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>六九</td>
<td>吉田校長実行部長、校長代理発令</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

関連事項

| 二九三 | 「帝京教育」第四六五号に「ダートン案」という阿部重孝の文章発表 |  |
| 四九二 | 筑波大学所蔵 |  |

高等女学校の研究（山本）
言葉を聞くと、肴が来ます。

肴は、まず、魚料理が齢を引いています。

その次に、和食のコースの前に、日本酒が登場してきます。
新しい学習法の実施

中校長の斡旋で私立名門尚徳女高学部に入学した吉田は、欧米の教育事情の観察と同時に入所を了。その結果、吉田は尚徳女高で実施された新式学習法のディレクターとなり、新式学習法を導入した。

新式学習法は、個別指導、学習プロセスのモニタリング、学生の自主性の強化などの特徴がある。吉田は、この新式学習法の下、学生の自主性を育むために、学習ファイルを用いて学習過程をカバーし、学生の自主性を伸ばすことに努めた。

この新式学習法は、吉田の考え方と一致していた。吉田は、学習の過程を理解することで、学習の効率を高めることを信じていた。また、学習の目的を明確にすることが、学習の効率を高めるために重要だと考えていた。

この新式学習法の導入により、吉田の学生は、学習の効率を高め、学習の意思決定能力を強化することができた。また、学習のモニタリングにより、学習の進捗を把握し、学習のギャップを発見することができた。

現在、吉田は、尚徳女高で実施された新式学習法のディレクターとして、学生の自主性を伸ばすために努めている。
表二 ガルトン学習の進度表

<table>
<thead>
<tr>
<th>学科</th>
<th>一</th>
<th>二</th>
<th>三</th>
<th>四</th>
<th>所要数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>地理</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>11時</td>
</tr>
<tr>
<td>歴史</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>125時</td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>165時</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>185時</td>
</tr>
</tbody>
</table>

曜日

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>火</th>
<th>水</th>
<th>木</th>
<th>金</th>
<th>土</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

時間

<table>
<thead>
<tr>
<th>9:00</th>
<th>10:00</th>
<th>11:00</th>
<th>12:00</th>
<th>13:00</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>数学</td>
<td>理</td>
<td>理</td>
<td>理</td>
<td>理</td>
</tr>
<tr>
<td>化学</td>
<td>理</td>
<td>理</td>
<td>理</td>
<td>理</td>
</tr>
</tbody>
</table>

放課時

<table>
<thead>
<tr>
<th>16:00</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>数</td>
</tr>
</tbody>
</table>
表三 ダルトン学習の数学指導案

第三年 数学科指導案 (NO.1)

私達は今日までの合計現在のペースで、数字の比較や、大きさの比較などを学んでいます。

数学の問題は、数学の基本的な考え方を理解するためのものです。大きな数字の比較、小数の比較、分数の比較など、様々な数学の概念を学ぶことができます。

指導案は、先生の説明に基づいて作成されています。先生の説明をよく理解して、自分の理解を深めたいと思っています。

図

ソソスバ: 3/4, 1/2, 3/4, 3/4, 3/4, 3/4 トルックスバ: 1/2, 1/2, 1/2, 1/2, 1/2, 1/2

限られた時間での学習は、他の数学の学習に役立つと思われます。
四、ダルトンにおける集団化

自由的、自律的な学習活動を目的としたダルトン・プランは、一方において学級単位・学年単位、さらに学校全体での活動として活発に展開する。回想録や座談会、ダルトンにおいて語る講演会などを分析すると、個別に学習したことにより、全員が協力して対処した活動の思い出が起こり故に、頻度が高いために、自発的、自律的な学習活動と呼ばれる。しかしが、自発的、自律的学習活動と夢にも考えなかった、と述懐している。SUMの考え方を示す。「山のわらび」を折る毎に合唱している。また、各自が進度表にもとづいて各授業の学習を実行している。長女の人が書かれた、夜、こつちや、その方を誘い出していく、一軒の友達の家へ行って、三人寄って、人が面積など、その人がしておられないことを教えてあげたりして、グループで囲んで、自由に協力しながら学習を進める。このように、グランピングやるの。例えば、グループ四、五でやっても全く構わないし、自分で非常によく得手なもののは、ご厄介になり、友達と一緒によくやった。
五、教師集団の動き

存命中の唯一の旧教員の接替談から教師達の動きをとらえてみる。

吉田惟孝校長を中心に、妹尾、兼清、粟原、高野、村上、野村の諸先生を初め、教員の大部分が参加して、新しい教授法に、徒歩もとも熱心に取組まれた。生徒は参考書を丸洗いの一何冊かを早朝から授業し、遅く返戻する者も多々、教員も山積したノートの検し、よく書くことによって覚える人もあったようだ。生徒は手間と協力してプログラム立案から練習、当日の進行、運営に当ることに喜びと楽しみを満喫したのである。

通達による「学校劇禁止」にも拘らず、吉田は学校教育の一環であるとの信念をもって、学校劇上演を推進した。

さらに、ニュースの県大会、全国大会への進出は、選手ばかりでなく多くの生徒がテニスに打ち込むというに至った。生徒の自発的運営に一任し、生徒達は仲間に協力してプログラムを立てて berhasilに進行した。
その頃、よく友人の会社で、ダルトン・プランが問題になっていました。優秀な生徒の父兄が、子供が勉強し過ぎるというのは反対されること、欠点が多かったようでした。始めての試みもあり、又三年という短い期間で、経費も余り無い時でしたから、後で考えてみるの。

この短い言葉の中に、教師は本当に努力をしていたもの、教師もこれに類似する進度表を作成しているのを考えなければならないように、教師に、提出物に対してのチェック、提出物に対する対応を求める勧告がなされている。しかし、生徒も「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声も出ている。さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が私に、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。

教師が、次のように言った。「教科書のない教室で、教科書のない教室で教えるのは、そう簡単ではなくありません。しかし、生徒は「先生方、生きくせにいた」とか、「これは何の時計ですか？」という声が上がり、さらに、生徒に「何の時計ですか？」という声が上がったのは、これまでにない新要素が加えられたからです。
アンケート実施年月日 一九八一年一月・三月
回収状況 発送数 四・七八四 回収数 一・六〇
有効回答数 一・六〇 回収率 三三・％

<table>
<thead>
<tr>
<th>熊本第一高女の回収状況</th>
<th>一九四</th>
<th>一九五</th>
<th>一九六</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>発送数</td>
<td>三〇</td>
<td>三〇</td>
<td>三〇</td>
</tr>
<tr>
<td>回答数</td>
<td>九〇</td>
<td>九〇</td>
<td>九〇</td>
</tr>
<tr>
<td>回収率</td>
<td>三三・％</td>
<td>三三・％</td>
<td>三三・％</td>
</tr>
</tbody>
</table>

アンケートの回収は、全国の高女対象に比し一〇％以上高い値になっている。とくに一九五五年は五六・七％と非常に回収率がよく、
数的に単純集計できるものを表したのが表七、八である。左端が一九四、一九五、一九六年のダルトン時代の結果であり、中央がその時
代を除いた、すなわち一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六のダルトン教育の特徴を把握するため、(一)他の時代の同校の卒業生との比較、
(二)同時代の他の第一高女生との比較を意味したのである。

また、自由記述の欄の記入も他校に比して詳細である。

교사가 대학 교육과 대중 공직에 종사한 후에는, 그는 교육부에 서altimore의 재정과 교육 현황을 정리하고, 그 결과를 기반으로 학교교육의 개선을 위한 제안을 제시했습니다.

도발적인 주제를 다루는 동안에, 그는 사회적 변화와 풍속의 변화를 보고, 이는 교육의 질을 향상시키는 데 중요하다고 주장했습니다.
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>1924</th>
<th>1925</th>
<th>1926</th>
<th>計</th>
<th>百分率</th>
<th>その他</th>
<th>1924</th>
<th>1925</th>
<th>1926</th>
<th>計</th>
<th>百分率</th>
<th>その他</th>
<th>1924</th>
<th>1925</th>
<th>1926</th>
<th>計</th>
<th>百分率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アンケート回答数</td>
<td>15</td>
<td>17</td>
<td>8</td>
<td>40</td>
<td>56</td>
<td>193</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>修身・校長</td>
<td>3</td>
<td>9</td>
<td>3</td>
<td>15</td>
<td>37.50</td>
<td>31</td>
<td>55.36</td>
<td>127</td>
<td>65.80</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>専科</td>
<td>6</td>
<td>3</td>
<td>1</td>
<td>10</td>
<td>25.00</td>
<td>19</td>
<td>33.93</td>
<td>33</td>
<td>17.10</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>3</td>
<td>9</td>
<td>2</td>
<td>14</td>
<td>35.00</td>
<td>7</td>
<td>12.50</td>
<td>17</td>
<td>8.81</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>国語・古文</td>
<td>3</td>
<td>6</td>
<td>1</td>
<td>10</td>
<td>25.00</td>
<td>20</td>
<td>35.71</td>
<td>58</td>
<td>30.05</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>漢文</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>6</td>
<td>15.00</td>
<td>9</td>
<td>16.07</td>
<td>24</td>
<td>12.44</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>書取</td>
<td>3</td>
<td>8</td>
<td>3</td>
<td>14</td>
<td>35.00</td>
<td>33</td>
<td>58.93</td>
<td>114</td>
<td>59.07</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>作文</td>
<td>10</td>
<td>15</td>
<td>7</td>
<td>32</td>
<td>80.00</td>
<td>33</td>
<td>58.93</td>
<td>115</td>
<td>59.59</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>読書</td>
<td>8</td>
<td>15</td>
<td>5</td>
<td>28</td>
<td>70.00</td>
<td>24</td>
<td>42.86</td>
<td>112</td>
<td>58.03</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>3</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
<td>10</td>
<td>10.00</td>
<td>3</td>
<td>5.36</td>
<td>13</td>
<td>6.74</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>地歴・暗記</td>
<td>8</td>
<td>11</td>
<td>3</td>
<td>22</td>
<td>55.00</td>
<td>37</td>
<td>66.07</td>
<td>134</td>
<td>69.43</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>地図</td>
<td>3</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>11</td>
<td>27.50</td>
<td>25</td>
<td>44.64</td>
<td>39</td>
<td>20.21</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>見学</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>9</td>
<td>22.50</td>
<td>5</td>
<td>8.93</td>
<td>28</td>
<td>14.51</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>調査</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
<td>50</td>
<td>12.50</td>
<td>7</td>
<td>12.50</td>
<td>19</td>
<td>9.84</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>5.00</td>
<td>6</td>
<td>3.11</td>
<td>6</td>
<td>3.11</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>英語・選択</td>
<td>15</td>
<td>17</td>
<td>8</td>
<td>40</td>
<td>100.00</td>
<td>9</td>
<td>16.07</td>
<td>16</td>
<td>8.30</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>必修</td>
<td>27</td>
<td>48.21</td>
<td>1</td>
<td>0.52</td>
<td>15</td>
<td>17</td>
<td>8</td>
<td>40</td>
<td>100.00</td>
<td>9</td>
<td>16.07</td>
<td>16</td>
<td>8.30</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未修</td>
<td>15</td>
<td>17</td>
<td>8</td>
<td>40</td>
<td>100.00</td>
<td>49</td>
<td>87.50</td>
<td>156</td>
<td>80.82</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>授業受講</td>
<td>6</td>
<td>13</td>
<td>4</td>
<td>23</td>
<td>57.50</td>
<td>31</td>
<td>55.36</td>
<td>108</td>
<td>55.96</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未受講</td>
<td>2</td>
<td>6</td>
<td>3</td>
<td>11</td>
<td>27.50</td>
<td>13</td>
<td>23.21</td>
<td>28</td>
<td>14.51</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>英語・暗唱</td>
<td>3</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>12.50</td>
<td>3</td>
<td>5.36</td>
<td>9</td>
<td>4.66</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>歌</td>
<td>3</td>
<td>5</td>
<td>8</td>
<td>20.00</td>
<td>4</td>
<td>7.14</td>
<td>46</td>
<td>23.83</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>会話</td>
<td>5</td>
<td>12</td>
<td>4</td>
<td>21</td>
<td>52.50</td>
<td>25</td>
<td>44.64</td>
<td>122</td>
<td>63.21</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>書取</td>
<td>5</td>
<td>12</td>
<td>4</td>
<td>21</td>
<td>52.50</td>
<td>5</td>
<td>12.50</td>
<td>7</td>
<td>3.62</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>数学・難し</td>
<td>6</td>
<td>8</td>
<td>1</td>
<td>15</td>
<td>37.50</td>
<td>23</td>
<td>41.07</td>
<td>69</td>
<td>35.75</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>易し</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>10.00</td>
<td>4</td>
<td>7.14</td>
<td>25</td>
<td>12.95</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>面白い</td>
<td>7</td>
<td>10</td>
<td>5</td>
<td>22</td>
<td>55.00</td>
<td>24</td>
<td>42.85</td>
<td>76</td>
<td>39.38</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>興味無</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>7</td>
<td>17.50</td>
<td>5</td>
<td>8.93</td>
<td>28</td>
<td>14.51</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>3</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>15</td>
<td>9.00</td>
<td>3</td>
<td>5.36</td>
<td>9</td>
<td>4.66</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>理科・講義</td>
<td>10</td>
<td>16</td>
<td>8</td>
<td>34</td>
<td>85.00</td>
<td>43</td>
<td>76.79</td>
<td>140</td>
<td>72.54</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>実験</td>
<td>11</td>
<td>15</td>
<td>8</td>
<td>34</td>
<td>85.00</td>
<td>33</td>
<td>58.93</td>
<td>133</td>
<td>68.91</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>観察</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>5</td>
<td>21</td>
<td>52.50</td>
<td>35</td>
<td>62.50</td>
<td>80</td>
<td>41.45</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>採集</td>
<td>5</td>
<td>6</td>
<td>4</td>
<td>15</td>
<td>37.50</td>
<td>29</td>
<td>51.79</td>
<td>35</td>
<td>18.13</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>標本</td>
<td>4</td>
<td>7</td>
<td>5</td>
<td>16</td>
<td>40.00</td>
<td>20</td>
<td>35.71</td>
<td>28</td>
<td>14.51</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>飼育</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>12.50</td>
<td>4</td>
<td>7.14</td>
<td>12</td>
<td>6.22</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>12.50</td>
<td>4</td>
<td>7.14</td>
<td>12</td>
<td>6.22</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td>熊本第一高等学校時代</td>
<td>その他の時代の熊本第一高等学校</td>
<td>高等女校時代</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>-----------</td>
<td>----------------------</td>
<td>---------------------------------</td>
<td>-------------</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>1924</td>
<td>1925</td>
<td>1926</td>
<td>計</td>
<td>百分率</td>
<td>1924</td>
<td>1925</td>
<td>1926</td>
<td>計</td>
<td>百分率</td>
<td>1924</td>
<td>1925</td>
<td>1926</td>
<td>計</td>
<td>百分率</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>音楽・唱歌</td>
<td>11</td>
<td>17</td>
<td>5</td>
<td>33</td>
<td>82.50</td>
<td>42</td>
<td>75.00</td>
<td>151</td>
<td>78.24</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合唱</td>
<td>14</td>
<td>15</td>
<td>7</td>
<td>36</td>
<td>90.00</td>
<td>43</td>
<td>76.79</td>
<td>136</td>
<td>70.47</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ピアノ</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>5</td>
<td>8</td>
<td>5.00</td>
<td>3</td>
<td>5.36</td>
<td>19</td>
<td>9.84</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>バイオリン</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>10.00</td>
<td>4</td>
<td>10.00</td>
<td>2</td>
<td>3.57</td>
<td>5</td>
<td>2.59</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>オルガン</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>2</td>
<td>9</td>
<td>22.50</td>
<td>12</td>
<td>21.43</td>
<td>38</td>
<td>19.26</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>講師</td>
<td>5</td>
<td>6</td>
<td>11</td>
<td>27.50</td>
<td>18</td>
<td>32.14</td>
<td>13</td>
<td>6.74</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>講師</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2.50</td>
<td>2</td>
<td>3.57</td>
<td>4</td>
<td>2.07</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>図画・模写</td>
<td>7</td>
<td>9</td>
<td>3</td>
<td>19</td>
<td>47.50</td>
<td>25</td>
<td>44.64</td>
<td>95</td>
<td>49.22</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>自由画</td>
<td>4</td>
<td>9</td>
<td>3</td>
<td>16</td>
<td>40.00</td>
<td>33</td>
<td>58.93</td>
<td>56</td>
<td>29.02</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>静物画</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>12</td>
<td>30.00</td>
<td>30</td>
<td>53.57</td>
<td>73</td>
<td>37.82</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>人物画</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
<td>10.00</td>
<td>16</td>
<td>28.57</td>
<td>30</td>
<td>15.54</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>風景画</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>11</td>
<td>27.50</td>
<td>30</td>
<td>53.57</td>
<td>67</td>
<td>34.72</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>写生</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>35</td>
<td>87.50</td>
<td>49</td>
<td>87.50</td>
<td>99</td>
<td>51.30</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>練刻</td>
<td>3</td>
<td></td>
<td>5.36</td>
<td>2</td>
<td>1.36</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>粘土</td>
<td>4</td>
<td></td>
<td>7.14</td>
<td>3</td>
<td>1.55</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>美術</td>
<td>5</td>
<td></td>
<td>8.93</td>
<td>4</td>
<td>2.07</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>体操・ダンス</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
<td>6</td>
<td>28</td>
<td>70.00</td>
<td>34</td>
<td>60.71</td>
<td>106</td>
<td>54.92</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>テニス</td>
<td>7</td>
<td>13</td>
<td>1</td>
<td>21</td>
<td>52.50</td>
<td>11</td>
<td>19.64</td>
<td>97</td>
<td>50.26</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>バレーボール</td>
<td>3</td>
<td>8</td>
<td>6</td>
<td>17</td>
<td>42.50</td>
<td>25</td>
<td>44.64</td>
<td>70</td>
<td>36.27</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>卓球</td>
<td>11</td>
<td>13</td>
<td>4</td>
<td>28</td>
<td>70.00</td>
<td>26</td>
<td>46.43</td>
<td>65</td>
<td>33.68</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>バスケットボール</td>
<td>4</td>
<td>9</td>
<td>5</td>
<td>18</td>
<td>45.00</td>
<td>9</td>
<td>16.07</td>
<td>86</td>
<td>44.56</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>足球</td>
<td>12</td>
<td>16</td>
<td>5</td>
<td>33</td>
<td>82.50</td>
<td>42</td>
<td>75.00</td>
<td>72</td>
<td>37.31</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鞠射</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>4</td>
<td>10.00</td>
<td>41</td>
<td>73.21</td>
<td>10</td>
<td>5.18</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>花木</td>
<td>7</td>
<td>9</td>
<td>5</td>
<td>21</td>
<td>52.50</td>
<td>19</td>
<td>33.93</td>
<td>87</td>
<td>45.01</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>平均台</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>6</td>
<td>30</td>
<td>75.00</td>
<td>21</td>
<td>37.50</td>
<td>92</td>
<td>47.67</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>蹴鞠</td>
<td>12</td>
<td>14</td>
<td>7</td>
<td>33</td>
<td>82.50</td>
<td>20</td>
<td>35.71</td>
<td>99</td>
<td>51.30</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>器械体操</td>
<td>14</td>
<td>8</td>
<td>5</td>
<td>22</td>
<td>55.00</td>
<td>30</td>
<td>53.57</td>
<td>55</td>
<td>28.50</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>陸上競技</td>
<td>1</td>
<td>13</td>
<td>1</td>
<td>15</td>
<td>37.50</td>
<td>15</td>
<td>26.79</td>
<td>50</td>
<td>25.91</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ドア</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>5.00</td>
<td>2</td>
<td>12.50</td>
<td>9</td>
<td>4.66</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>家事・衛生</td>
<td>5</td>
<td>8</td>
<td>3</td>
<td>16</td>
<td>40.00</td>
<td>25</td>
<td>44.64</td>
<td>70</td>
<td>36.27</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>家計簿</td>
<td>2</td>
<td>4</td>
<td>2</td>
<td>8</td>
<td>20.00</td>
<td>20</td>
<td>35.71</td>
<td>45</td>
<td>23.32</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>洗濯</td>
<td>2</td>
<td>8</td>
<td>2</td>
<td>12</td>
<td>30.00</td>
<td>30</td>
<td>53.57</td>
<td>95</td>
<td>49.22</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>染色</td>
<td>7</td>
<td>11</td>
<td>6</td>
<td>24</td>
<td>60.00</td>
<td>34</td>
<td>60.71</td>
<td>112</td>
<td>58.03</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>飲食</td>
<td>13</td>
<td>16</td>
<td>8</td>
<td>37</td>
<td>92.50</td>
<td>50</td>
<td>89.29</td>
<td>163</td>
<td>84.46</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>東洋</td>
<td>7</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>14</td>
<td>35.00</td>
<td>31</td>
<td>55.36</td>
<td>66</td>
<td>34.20</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>水泳</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>11</td>
<td>27.50</td>
<td>17</td>
<td>30.36</td>
<td>39</td>
<td>20.21</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2.50</td>
<td>5</td>
<td>8.93</td>
<td>7</td>
<td>3.63</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>裁縫・和裁</td>
<td>15</td>
<td>17</td>
<td>8</td>
<td>40</td>
<td>100.00</td>
<td>48</td>
<td>85.71</td>
<td>178</td>
<td>92.23</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>洋裁</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>6</td>
<td>14</td>
<td>35.00</td>
<td>37</td>
<td>66.07</td>
<td>66</td>
<td>34.20</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ミシン</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>6</td>
<td>19</td>
<td>47.50</td>
<td>43</td>
<td>76.79</td>
<td>99</td>
<td>51.30</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>手芸</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>2</td>
<td>10</td>
<td>27.50</td>
<td>35</td>
<td>62.50</td>
<td>77</td>
<td>39.90</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>編物</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>5.00</td>
<td>25</td>
<td>44.64</td>
<td>65</td>
<td>33.68</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>10</td>
<td>12</td>
<td>5</td>
<td>27</td>
<td>67.50</td>
<td>7</td>
<td>12.50</td>
<td>20</td>
<td>10.36</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
先生と生徒の自由な交流、生徒の全力投げの学習態度が、アンケートの行間に溢れているという感じをもつ。
四年間ダルトン式でしたので自由にのびのびと自分の研究をした。しかし、学科について広く、深く、も出来ました。学科毎、毎科目の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配られ、それはそれぞれの限られ、だから自分自体の指導案が配され
目の皆様、私たちは再び、大切なグループが出来た。新しく友達を増やし、勉強のグループが出来て、放課後も一緒に家に近い友達と一緒に過ごすことが出来て、とても楽しくなっています。

相談したり、学習することは、教科の学習だけでなく、自分自身を磨くための大切な経験となりました。この機会を大切にし、今後も頑張ります。

このページに、皆様の声が聞こえてきました。皆様の声を大切にし、一緒に進むことを心に留めています。今後とも、皆様の声が響き、私たちの学びの旅を支えていきます。
そして困難に立ち向かう勇気を与えてくれた。その裏返しとして、多くの方々が、かなり常識の不足の面がある。上級学校に入学して最初の一年は何も知らない自分にどうguidedしたがどのようにして一人で学べる方法を多く経験していたので、二年になった頃は楽になって時間もやり過ごして読書その他生活をエンジョイ出来た。」(二九六年卒)
政蔵動向にも考え合わせ、新興地を構えて、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したということは、熊本で実施したダルトン・プランとも考え合わせ、校立したのである。同僚の誰も同行せずに出任したうこと
向所の好試練の地としてのみ展けるので御座います。然らもその向ふ最も正しく勇敢な所には暗雲も遂にはられることを疑いません
又よし正義をかざしては破れる事があっても決して邪悪の勝つ世界は信じますまい。

自発的、自律的人間への変革を求める高等女学校における自由教育は、個と集团の止揚しあう教育実践を展開し、生徒の中に内容化
していった。教育とは、一人が去りあるいは死去しても、播いた種は次の世代へと受け継がれていく。そこに望みがあり、また進歩が
ある。

注

西村弘子、新井敏子、館かおる「高等女学校の研究」
設立過程を中心に
「ておの水女子大学女性文化資料館報第五号」

（1）

門下生

（1）

教育記録

（1）

高等女学校卒業生に対するアンケート調査結果は左記の冊子にまとめた。
 том3私立女学校・高等女学校
一九八
同No.2自由記述
一九八
大學女子大学紀要
第三十集（文系編）
高等女学校卒業生に対するアンケート調査資料No.1
一九八
大正十年三月七日土曜日九州日日新聞の記事は、熊本県立第一高校内清香会舘ルートン資料室に保管
妹尾良彦「その後」（済美26号）一九二八
九州日日新聞一九二五年三月一日
本研究に際し、熊本県立第一高等学校同窓会で、「一九四年度「しようめ」編集委員であった倉橋逸子氏に資料提供等全面的に御援助いただいたことを記し感謝の意を表する。